

## 海の恵みから健康食品…仙台バイオ企業 十八成浜に生産拠点開所

2013/8/5

藻を原料にした健康食品の製造などに取り組む「スメージャパン」(原芳道社長、仙台市)の開発拠点がこのほど石巻市十八成浜清崎山に完成した。2日に現地で開所式があった。



同社は、動脈硬化などに予防効果があるとされるエイコサペンタエン酸(EPA)などの成分を含む海中の微細藻「ナンクロロプシス」に着目。十八成浜の新拠点に整備した大型屋外プールで人工的に大規模培養する。これを健康食品として商品化し、今秋にも販売する見通し。

さらに、体内に油脂を蓄積するナンクロロプシスの特性を生かし、バイオ燃料の開発にも取り組む計画だ。

同社は石巻市が誘致し、昨年3月に市と立地協定を結んでいた。昨年末に起工し、試運転を経て先月中旬に操業を開始。藻を培養する上でイスラエルのバイオ企業とも提携した。

開所式には同社関係者のほか、亀山紘石巻市長やニシム・ベンシトリット駐日イスラエル大使らが出席。亀山市長は「(微細藻類は)裾野が広い材料であり、地元の産業に成長させたい」と期待。ニシム大使は「両国のバイオ技術を結集し新事業をスタートできるのはうれしい」と祝った。

原社長は「地元で雇用の機会を創出し、若い世代に新しい事業の可能性を提案したい」と話していた。

【写真】 微細藻を大規模培養する屋外プール